松山湿原ガイドマップ

花の名称や画像をクリックすると、
詳しい情報を見ることができます。

透明!?

サンカヨウ

⑧クルマムグラ

⑨ミヤマハンショウヅル

ツバメオモト

頂上到達 797m

14
13
えぞ松沼
つつじ沼
15
11
12

倒木更新

⑤イケマ

②レイジンソウ

①ベニバナイチヤクソウ

⑥ズダヤクシュ

⑦ヒトリシズカ

③根曲がり竹

④マイヅルソウ

ゴゼンタチバナ

展望台
残り400m

残り200m

⑩ミズバショウ

花言葉は
揺れる想い

ワタスゲ

不老の泉

水辺で滑りやすいので
要注意

はいまつ沼

おまけ

雨霧の滝

仁宇布の冷水

START

松山の鐘

松山湿原に住む野生動物は
食事の確保やパトロールに
忙しく、皆さんが来たことに
気付かないことがあります。
入山する際は「松山の鐘」を
鳴らして彼らに知らせてあげて
くださ～い。

戻る

1 ベニバナイチヤクソウ

- 漢字で「紅花一薬草」と書くように傷や虫刺されに効く薬草。
- 群生する植物なので、一輪見つけると周りに多く咲いている。
- ピンク色で丸っこい花。
- 見頃は6月～8月頃。

戻る

2 レイジンソウ

- 開花期の8月上旬になると淡い紫色に花が色づく。
- 花の形が舞楽を演奏する「伶人」に似ていることからこの名がついた。
- 猛毒を持つトリカブトと同属なので全草に毒を持つ。食べると最悪死に至る。

戻る

3 根曲がり竹

- 根曲がり竹は、イネ科タケ亜科ササ属の「チシマザサ」の若竹。
- 東北地方以北に多く分布しており、雪の重さでチシマザサの芽が曲がってしまうことから「根曲がり竹」と言われる様になった。
- 旬は5月～6月で、郷土料理に使用されることもある。

戻る

4 マイヅルソウ

- 花を咲かせる芽は葉を2～3枚つける。
- 一方で、花が咲かない芽は大きめの葉が1枚。
- 名前の由来は、葉の形が、鶴が羽を広げて舞い踊っている様に似ていたことから。
- 見頃は4月～5月頃。

戻る

サンカヨウ

- 雨などに濡れると、元は白い花が透明になるが、その条件は厳しい。
- 長時間にわたり雨が降り続く、かつ低温高湿状態になる、かつ開花時期がその時期と一致しなければならない。
- 透明なサンカヨウを見られたら幸運。
- サンカヨウの花言葉は「幸せ」。

戻る

画像引用 “初夏から梅雨に咲く透明の花「サンカヨウ」とは”. ウェザーニュース. 2023/06/20. https://weathernews.jp/s/topics/202306/140135/.（参照2024/07/17）

ゴゼンタチバナ

- 葉の枚数は4枚か6枚と決まっており、4枚の場合はまだ未熟で来年花が咲く。また6枚の場合は必ず花が咲いている。
- 名前の「ゴゼン」の由来は石川県の白山の御前峰で発見されたことから、この名がついた。
- 開花期は6月～7月。

戻る

5 イケマ

- ガガイモ科のツル性多年草で、夏に白く小さい花が丸くまとまって咲く。
- アイヌ文化では、根を食用としていますが、アルカロイドという毒が含まれている。
- 根の独特な臭気に魔除けが信じられており、お守りやおまじないに使用されてきた。
- ガイド曰く「食べては『イケマ』せん」で覚えると良いらしい。

戻る

ツバメオモト

- 特徴はなんといっても大きな葉。その間を白くて可憐な花が咲く。
- 花が咲いた後は、ブルーベリーのような小さな青紫色の実をつける。
- 名前の由来は諸説あるが、ツバメが飛び交う季節と開花期が一致することから名付けられたとも言われている。
- 見頃は5月～6月頃。

戻る

松山湿原 展望台

戻る

6 ズダヤクシュ

- 一つ一つの白くて小さな花が、下を向いて咲いているのが特徴。
- モミジのような形の葉も特徴的。
- 漢字で「喘息薬種」と書き、長野県の方言で「ズダ」が「喘息」を表しこの植物は咳止め薬として使用されていた。
- 見頃は6月～7月頃。

戻る

7 ヒトリシズカ

- 大きな特徴は、葉に艶があること。
- 日本固有の植物で「万葉集」や「古事記」にも登場した。
- 類似植物に「フタリシズカ」があるが、違いは葉に艶があるかどうか・花穂が1本か2本か・早春に咲く（ヒトリシズカ）か初夏に咲くかなどの違いがある。
- ヒトリシズカの花言葉は「静謐」。

戻る

画像引用“はかなくも可憐な花「ヒトリシズカ」”. 養命酒製造株式会社元気通信. 2019年4月号. https://www.yomeishu.co.jp/genkigenki/crudem/190329/. (参照2024/07/17)

8 クルマムグラ

- 6枚から10枚（通常は6枚）の均等に生えている葉が特徴的。
- 類似植物で「ヨツバムグラ」があるが、違いはその名の通り葉が4枚かどうか。
- 開花期は5月～6月。
- クルマムグラの花言葉は「謙虚」。

戻る

9 ミヤマハンショウヅル

- 展望台後方の岩にツルが絡み合い咲いているので、知る人ぞ知るレアな植物。
- 花は紫色で下を向いて咲く。
- 名前の由来は「半鐘」つまり鐘に似ていることから。
- 開花期は7月～8月。

戻る

10 ミズバショウ

- 白い花びらのような部分は「苞」といい花を保護する役割がある。
- 水の流れで種を運び、川沿いで芽を出すという子孫の増やし方。
- 見頃は5月～6月頃。

戻る

画像引用 “北海道花めぐり・庭めぐり”. 北海道建設部まちづくり局都市環境課. 2024/05/15. https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/tkn/hana/flower/hs018.html (2024/07/31)

ワタスゲ

- 6月下旬になると、画像のように花ではなく果穂（綿毛）が満開になる。
- 松山湿原山頂ではワタスゲが一面に広がっている。しかしながら、ワタスゲは霜に弱いため、年によっては豊凶の差が激しい。
- 花言葉はワタスゲの姿みたく「揺れる想い」である。

戻る

11 エゾゴゼンタチバナ

- エゾ（蝦夷）という名前の通り、日本国内では北海道のみに分布している。
- 松山湿原道中に咲くゴゼンタチバナと頂上にのみ咲くエゾゴゼンタチバナを比較するのも面白い。
- 実は花の部分は、真ん中の黒い部分。
- 開花期は6月～7月頃。

戻る

12 ヒメシャクナゲ

- ご覧の通り、開花期の6月頃になるとピンク色で壺型の可愛らしい花を咲かせる。
- 葉の色は濃い緑色で、花のピンク色とのコントラストが素晴らしい。
- 花言葉は「危険」「警戒」

戻る

13 モウセンゴケ

- 葉の表面に生える繊生から消化酵素を含む粘液を出し、その粘着力で獲物を捕らえる食虫植物。
- 獲物を捕らえると、落とさないように葉が巻き込むように曲がっている。
- 運が良ければ、モウセンゴケが獲物を捕らえている瞬間を見ることができる。
- 光合成色素も持っているので、自ら養分を合成することもできる。

戻る

14 ツマトリソウ

- 松山湿原頂上にひっそりと可憐に咲いているので目立ちにくい。
- 花びらは7枚で、よく見ると雄しべの先端には、オレンジ色の葯と呼ばれる花粉が入った袋がある。
- 名前の由来は、着物の「褄」の赤い裏地が、花びらの先端が赤く縁取られることに似ていることから名付けられた。しかし赤く縁取られたツマトリソウはほとんど見られない。

戻る

15 ミクリソウ

- 頂上のつつじ沼の水底の土中に地下茎があり、見頃の7月下旬になると水面に浮き上がってくる。
- 環境省の絶滅危惧種に指定されているので、見られたらレア。
- 球状の白い花を咲かせる。

戻る

倒木更新

- 倒木更新とは、倒れた親木を苗床にして、次世代の幼木が育つ現象である。
- しかし、倒木材上は植物の利用可能な養分が少なく、このような環境で生育する実生には養分吸収を促進するとされる外生菌根菌との共生関係が重要である。
- 倒木更新を起こす代表的な樹木は、エゾマツやトドマツ、屋久杉が挙げられる。

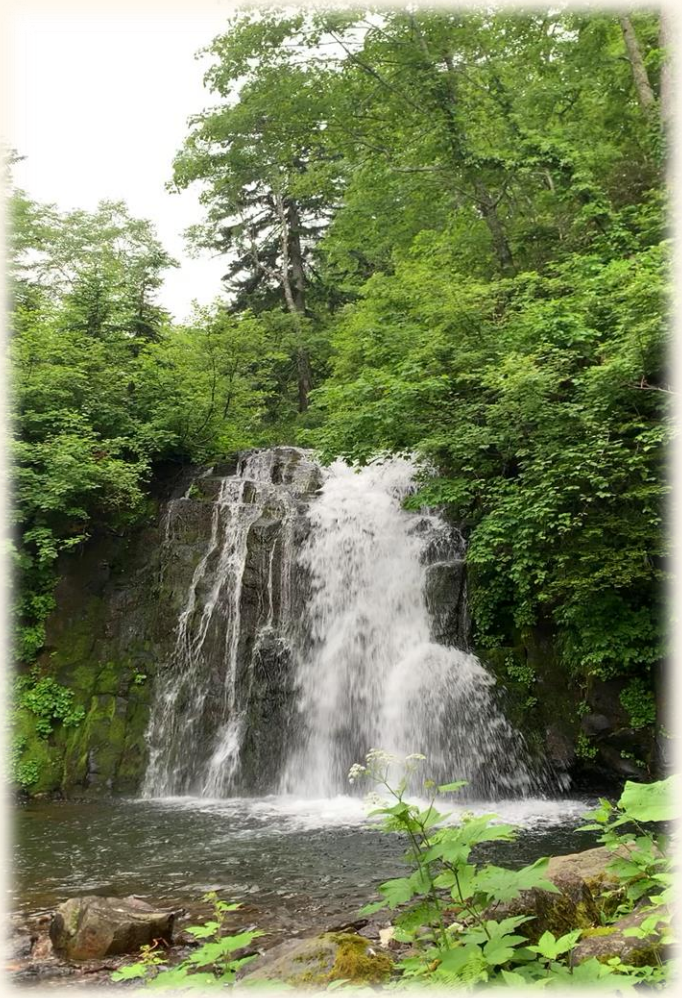
戻る

松山湿原 頂上

- 松山湿原の頂上では、至る所に矮性（草丈が低い性質）のアカエゾマツが点在しています。
- ご覧の通り、多くのアカエゾマツが一方向にしか成長していません。これは西側から強風が吹き東側にしか枝が伸びない為。
- また、枝が上に伸びないで地面に向かって伸びているのは、雪の重さが原因です。

戻る

松山湿原へ向かう途中に二股に分かれている道があり、
右へ進むとこの２つのスポットに向かうことができる。



雨霧の滝

仁宇布の冷水

戻る